

組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

氏名： 鮫島弘光	提出日：平成 24 年 7 月 2 日
東南アジア研究所における職名： 特定研究員（科学研究） * 右記の該当する職位に○をつけて下さい。（講師・助教・助手・ ポスドク ・博士課程学生・修士課程学生・学部学生）	
派遣先の研究機関等（調査を実施した国名・機関名（日本語で記載）及びカウンターパート名）： インドネシア・世界野生動物保護基金インドネシア東カリマンタン州西クタイ県事務所・Yuyun Kurniawan * 派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所に○をつけてください。（大学・研究機関・企業・ その他 ）	
派遣先の研究機関等での職名： 研究員	
派遣期間： 平成 24 年 5 月 23 日 ～ 平成 24 年 6 月 22 日（派遣日数：31 日）	
研究活動等の主な内容（該当する番号に○をつけてください。複数可） ①研究・実験 ② フィールドワーク ③ セミナー ④インターンシップ ⑤サマースクール等の講習 ⑥学会出席 ⑦単位取得等 ⑧その他	
研究活動の主な領域（該当する番号に1つ○をつけて下さい。） ① 文学 ②社会科学 ③数物系科学 ④化学 ⑤工学 ⑥ 生物学 ⑦ 農学 ⑧医歯薬学 ⑨総合領域 ⑩複合新領域	
派遣の概要（500～700 字程度） 申請者は基盤 S(石川)「東南アジア熱帯域におけるプランテーション型バイオマス社会の総合的研究」の研究員として、主にマレーシア・サラワク州(ボルネオ島)の Anap-Muput 森林管理区で自動撮影カメラによる地上性哺乳類の調査を行っているが、インドネシア科学院などの協力をもとにカリマンタン側でも同様の調査を行ってもらい、森林伐採が哺乳類に与える影響のボルネオ一般での傾向や、その中での地域変異を明らかにしようとしている。 5月23日～27日は京都大学農学研究科の神崎護教授、井鷲裕司教授とともにインドネシア西カリマンタン Suka Jaya Makmur 社森林管理区を訪問した。本コンセッションも将来の調査地として検討している場所であり、現地のマネージャーから管理システムの説明を受けた。 5月28～29日はインドネシア科学院動物研究センターの Gono Semiadi 氏を訪問し、先方が中央カリマンタン Sari Bumi Kusuma 社で行っている調査について方法論の検討を含めた打合せを行った。 6月2日～6月21日は京都大学農学研究科の北山兼弘教授、今井伸夫研究員、田中厚志研究員とともにインドネシア東カリマンタン州 WWF Indonesia の Kutai Barat Forest Management 事務所を訪問した。Kutai Barat Forest Management 事務所では Ratah Timber 社の伐採コンセッションで申請者がサラワクで行っているような動物多様性調査を行っており、方法のすり合わせを行った。 今回の派遣ではインドネシアの森林とそれに関する法規、それぞれの伐採会社の管理史、今後の展望など多くの知見を得ることができ、大変有用であった。	
事業に係る研究成果（500～700 字程度） Ratah Timber における調査は2014年までに終了し、Anap-Muput などの結果と比較して論文として出版予定である。	